いなほ

稲積神社社報
第48号
平成30年　新年号

祝祭日には国旗を掲げましょう
迎春

謹賀新年

宮司　根津泰昇
禰宜　根津佳明
権禰宜　根津司
〃　土肥東宮
〃　篠原康正
〃　渡辺僚
〃　神戸昌夫
〃　保田俊
〃　河野泰山
〃　伊藤裕之
〃　志村奈実
〃　名取増昭
〃　小尾武
責任役員　齋藤茂
〃　丹澤正臣
総代顧問　宮川睦武
総代　飯室武
〃　塩島好博
〃　内田清
崇敬会代表世話人　宮川睦武
正の木祭実行委員長　藤本浩

外郭団体

甲府伊勢講講元　小野忠
崇敬青年会会長　大澤慶暢
稲積睦会会長　長潟英規
敬神婦人会会長　丹澤起恵子
崇敬会友の会会長　大森丘
いなほ会会長　佐藤久良
和会会長　渡辺進
いなづみ会会長　深澤智也
崇敬会常若会会長　井上重良

新年を迎え

崇敬会
常若会会長
井上重良

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、ご家族お揃いでの、良い年をお迎えの事と、お喜び申し上げます。

皆様にとって昨年は、どんな年だったでしょうか。私は異常気象に見舞われた年であったと思います。インド、パキスタンでは気温が五十三度を記録したり、また、ゲリラ豪雨により砂漠に花畑が出来たそうです。国内でも九州北部に豪雨が発生し、大きな傷あとを残しました。これも地球温暖化による悪影響が考えられます。

自然災害ではあるものの、私達人間がひきおこした人災なのかも知れません。これからは、温室効果ガス削減を意識した対策を考えるべきだと思います。

早いもので常若会も崇敬会の仲間入りをしてから、四年目になります。八名の会員で発足した会も今は二十六名の大所帯となり、楽しく活動させて頂いております。

正ノ木祭のご奉仕や神事等にも出来るだけ会員に参加していただき理解も深められたと思います。今後とも宜しくお願い致します。

私は常若会発足と同時に、崇敬会の会員です。記念に頂いた御朱印帳も大切にしております。旅行などで立ち寄った際には、社寺詣でを心掛けています。今年中には、両面が完了できればいいなあと思っています。

常若会の常若と言う名前は根津宮司様が名付け親です。常に若く居たいという意味の他にも名前の由来がある事を後で知りました。

伊勢神宮で、一三〇〇年以上の長きにわたり二十年に一度神殿を新造するという式年遷宮。伝統的な形体を維持しながらも、常に新しく若々しい姿にリニューアルして永遠を保つという発想こそが、常若の思想であると知りました。

名前負けしないように、今後も会を盛り上げ、崇敬会をも盛り上げ、神社の繁栄にたずさわる所存です。

第五十二回稲積神社伊勢講千社参りに参加して

恵比寿神社婦人部
小林幸子

櫻山八幡宮にて正式参拝

今回「飛騨國櫻山八幡宮」参拝と錦秋の奥飛騨温泉郷に泊まる旅に、十月十五日十六日、一泊二日、雨の中朝六時出発、伊勢講の旅は雨が降っていてもいつも、バスを降り見学する時は必ずの様に止んでしまうのですが五十二回にして初めて二日間雨に降られた事です。第一日目、中央道の中津川インターチェンジを降り昼食は高山プリンスホテルでのランチバイキングでありました。下呂を通り目的である正式参拝の飛騨國櫻山八幡宮に到着し主祭神の應神天皇、熱田大神、香椎大神が祭られておられる拝殿で参拝させて頂きました。櫻山八幡宮の境内社には、秋葉神社、稲荷神社、琴平神社、昭崎神社、天満神社が祀られている大きなお宮様でありました。隣りに高山祭屋台会館がありました。見学をいたし、木土塗り、彫刻、金具織り、染め、絵画、人形の色鮮やかな屋台を見、昔の飛騨の職人芸の匠の力に感動しました。雨の中での古い町並みを散策して新穂高温泉に一泊、いつものとおり美味しい料理に舌鼓し、歌等で楽しい宴会で一日目の日程終了。翌日は、雨の中でも楽しみましょうとの一言で日本唯一の二階建てのゴンドラ「新穂高ロープウェイ」で標高二一五六メートルの山頂に空中散歩、でも雨の為視界が遮られて素晴らしい絶景を見る事が出来ませんでした。天気が良ければ展望台より雲上散策が出来たり、遠くに見る山脈等の紅葉も残念ながら見る事は出来ませんでした。早目に下り昼食場所の平湯あんき屋へ郷土料理である「鶏ちゃん焼き」、沢山の鳥肉と野菜を頂きました。雨は止むことなく降り続けているなか帰路に向かう、安房峠の道路、昔は狭くてヘアピンカーブ多数の曲がり道であった事の思い出話しをしながら山道を下り、何度かの休憩を取りながら予定時間より早目に甲府へ到着。全員元気で帰って来られました。来年の参拝は知多半島方面の予定の様です。天気も良い事を念じ楽しみにしております。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

高山祭屋台会館

戌年を迎え

稲積神社　権禰宜
神戸昌夫

平成三十年は干支によると戌年（いぬどし）にあたります。ご存知のとおり干支の十二支の子年（ねどし）から、亥年（いどし）の内十一番目が戌年になります。昭和九年生まれの私も今年は七回目の年男です。当該年の年男はイベントなど行事の際の引き立て役になる事が多くあるようです。その中で二月の節分祭の年男として豆まきの参加は皆さんもよく見かけると思います。ついでに十二支による性格判断を調べてみました。これは一般的なもので全部が当てはまるものではありませんが子年から亥年までの性格がそれぞれ特徴があり、良いも悪いもある程度頷く事があります。なお戌年の人は朴訥（ぼくとつ）としていて律儀で苦労を惜しまない忠実な性格であると良いことずくめで出ていました。一部の人は当たると思います。

次に戌年に因み「犬」についてお話をしてみます。犬は人との関わり合いは昔から長いようです。犬ならではの特徴を生かした付き合いもたくさんあります。まず犬の聴覚ですが人にはまったく聞こえない音でも判るようです。この聴覚を利用した「犬笛」があり、この犬笛で教育した特別な犬に遠隔から命令して悪事を働いた映画を、昔見たことがあります。次に臭覚ですが、これも人とは比べようもない機能があります。犬は生まれたところを成犬になっても覚えているようです。この帰趨（きすう）本能は鳥や魚にもありますが犬はその最たるもののようです。また犬の性格上、特に血統犬は生まれた時から調教などで主人には絶対服従がみられます。犬との付き合いの種類を見ても盲導犬、警察犬、麻薬犬、猟犬、犬橇犬、牧羊犬などがあります。またペットとしての飼い犬に、座敷犬、散歩犬、番犬、闘犬などがあり、「忠犬ハチ公」とか西郷隆盛の愛犬など犬との付き合いは切りがありません。それに伴う犬の種類も豊富で、日本在来の血統犬の種類から外国産血統犬、それに雑種犬と無数のようです。

ここで純粋の犬ではありませんが、犬の字のついた狛犬（こまいぬ）のお話をしてみます。神社境内の鳥居をくぐった参道には狛犬さんが二頭両側に鎮座しています。この狛犬さんの由来については諸説ありますが、神社に奉納設置された空想上の守護獣像との説が一般的のようです。

神社参拝の時、狛犬さんの阿（あ）吽（うん）の表情を見るのも良いかと思います。

戌年に因み雑学をお話しました。

常若会
藤本恭司

平成三十年に年男をむかえる私、ありがたくも多くの方々の支えと協力があって今日がございます。今私はこの国に生まれて本当に良かったと思っています。この年男という風習も後世に残し伝えて行かなくてはならない我が国の慣習のひとつです。私の子供がまだ幼いころ「どうして人を殺してはいけないの」と素朴ではありますが本質をついた質問をしてきたことがございます。確かに牛や豚を殺して食べることは良くて人間だけはダメなんてちょっとおかしい、思いついた私の考えはこうでした。ほとんどの生物は一度に多くの出産を行い、生まれたその瞬間から自立し、捕食をする。しかしながら人間は多くの人々の支援がなくては自立できない。つまり一人前になるまでにとても長い時間がかかり、その尊い命は大切にされるべきなのではないか？と。もちろん他の命を軽く見ておるわけではありませんが未熟な私には、特に先の質問に対しては他に適当な回答が見当たらなかったのです。神社に出向き氏神様に出産や成長を報告する風習もそういった部分が根っこなのかなと思います。最近個人の人権や主張が重んじられるようになりました、それはそれで構わないのだがその代わりに失った事も多いと感じます。日本人が基本的に心に思っていなくてはいけない事。それは国体の維持に他なりません。国体の維持とは天皇崇敬・先祖崇拝といった連続性と、国民国防・家制度といった連帯性です。こういった基本概念が無い自由は無責任であり真の自由とは呼べないはずです。神道行事や地域のお祭りに参加することは連続性・連帯性を学べる大変貴重な機会だと思います。最近助け合いという言葉を良く聞くようになりましたが、かつての日本人は意識せずとも当たり前のように助け合い認め合い支え合って生きてきました、美しい事ではありませんか。良い悪いは別としまして、昔はスピードの取り締まりを行っていると対向車がパッシングで教えてくれたものでした、古き良き昭和の風景ですね。これから新しい時代が来ようとも正しい日本人としての価値観を忘れることなく、先祖が残してくれたこの国の文化伝統を守りたい。微力ではありますがそんな事をお手伝いしつつ、残りの人生を過ごせていけたら嬉しいです。

全国神社総代会に参加と山梨県神社総代会表彰の栄に浴して

恵比寿神社世話人
石原　充彦

九月六日、小雨降る中朝六時バスにて甲府を出発し、埼玉県大宮市で開催される全国神社総代会へと向かった。生憎の雨で天候に恵まれたとは言えないが、三台の大型バスで約百二十名の参加と聞いていた。その他富士吉田方面からバス一台が参加との事。車は中央道を走り談合坂で合流し、話題の観光地、小江戸として人気を博している川越へ向かい蔵造りの街並を散策。時の鐘の鐘楼、菓子屋横丁でせんべい、カルメ焼、あめなど昔ながらの駄菓子が販売されていた裏通りに入ると神社やお寺が多くあり城下町の雰囲気を満喫することができた。その後割烹福登美で昼食をすませ、会場である大宮のソニックシティホールに向かった。会場は大宮駅西口前にあり、周辺は繁華街で賑やかで、埼玉県立のホールなので非常に大きかった。本大会には、全国から二千六百人強の人が参加されているとの発表があり、照明が消え神楽の舞が始まり、次に落語家　林家たい平の記念講演があり、その後式典が行われ、開会の辞、国歌斉唱、功労者の表彰、来賓の祝辞、埼玉県知事を始め神社関係者、政治家などの祝辞があり三時間に及ぶ会は終了しました。始めて全国大会に出席し参加人数の多さ、スケールの大きさに驚きました。終了後は山梨へ帰るグループと、筑波山神社参拝組に別れ、私は参拝組だったので筑波へ向かい筑波山温泉・ホテル青木屋へ泊まり、翌朝神社を正式参拝して、筑波宇宙センターを見学し夕方七時半ごろ帰って来ました。

また今年は甲府恵比寿神社世話人会より私と水沢勇三様が山梨県神社総代会から表彰されることになり、十月二十四日コラニー文化ホールにおいて開催された関係者大会においての受賞式により賞状と記念品をいただきました。受賞されたことに対し、大変誇りに思っております。

今後も神社のために協力していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

全国氏子青年協議会　茨城大会に参加して

崇敬青年会
五味　隆彦

懇親会場で宮司挨拶

去る平成二十九年八月五日全国氏子青年協議会　第五十五回定期大会　茨城大会が「和を深め、輪を繋ぎ、我が郷土を愛す」をテーマに全国各地から五百名を超える氏青が集い、鹿島神宮・アトンパレスホテルにて開催され、稲積神社崇敬青年会メンバー六人で参加させて頂きました。

鹿島神宮にて御祭神の元、静寂な中、正式参拝をさせて頂きました。鹿島神宮御創建は古く初代神武天皇の御代にさかのぼるそうです。又、大鳥居は東日本大震災で被災し、三年前に竣工したそうです。参拝の後、鹿島神社近くのお蕎麦屋さんにておいしいお蕎麦を頂きました。

大会は、ホテル国際館にて神宮遙拝・国家斉唱・教育勅語・氏青綱領唱和・氏青物故者に対しての黙祷・表彰式・総会報告・新会長挨拶・次期大会開催地挨拶・美わしき山河合唱等々進められ聖寿万歳にて閉会しました。

懇親会も同会場にて開催され、当稲積神社宮司・山梨県神社庁庁長の根津宮司さんの挨拶がありました。迫力のある剣術が披露され鹿島新當流（戦国時代に塚原卜伝が興した剣術の流派）というそうです。そのほか、あばれ太鼓・ガマの油売り・マグロの解体ショーなど、多彩な演出を披露頂きました。マグロはお寿司が出されとてもおいしかったです。

大会参加にあたり、主催・主管の皆様のご尽力、沢山のおもてなしに心から感謝申し上げます。

＊来年の全国氏子青年協議会第五十六回定期大会は平成三十年七月七日「杜を思う心、大和の心、優しい心、氏青よ未来に向けて集い語ろう」を大会テーマに愛知県にて開催される予定です。

鹿島神宮にて

全国敬神婦人会静岡大会に参加して

敬神婦人会会計監査
沼上菊江

九月二十六日、第六十八回敬神婦人会静岡大会に出席しました。山梨県からの参加者三十五名、稲積神社より七名の参加でした。天候も良く、甲府を出発し二ヶ所の乗車場所に寄り、東富士五湖道路、東名高速で駿府城公園へ（東御門、紅葉山庭園）を散策し、立札席でお茶を戴き、展示物の説明を聞きました。時間がなく少し残念でした。昼食を取り、大会会場（静岡市民文化会館）へ。当番県の婦人会の方々の出迎えを受け会場へ。午後一時三十分パフォーマンスショーがあり、式典が開会され厳粛のうち国歌斉唱、北白川慶子会長の式辞があり、来賓祝辞後、議事に入り、活動報告、予算案等可決されました。次年度大会他、神奈川県（横浜）と発表があり、会長代理の方の挨拶があり、議事終了閉会となりました。

大会会場にて

記念講演「家康公の愛した駿府」徳川宗家十八代当主徳川恒孝様のお話し、（一）家康公を育てた浜松時代（青年から壮年へ）（二）戦国から平和への大転換　江戸時代の建設（三）日本を支えた世界一の教育水準（四）神、儒、佛の作った江戸社会の精神難しい中にもユーモアが入り、歴史の中に入り込みました。外は夕暮れになっていました。一路山梨県への帰路に着きました。多数の神社のある中で、敬神婦人会のある所が少ない事がわかりました。婦人会の活動が発展します様に、体に気をつけて協力していきたいと思っています。今回の大会参加により神社外での交流が深まった様な感じを受けました。

一日ありがとう御座居ました。

伊勢神宮新穀感謝の旅

崇敬者
望月正樹

神宮は神嘗祭を終え、本年の五穀の豊かな稔りをもたらせてくださったご神恩に感謝の真心を捧げる、新穀感謝祭の時季を迎え、全国各地から大勢の参拝者が訪れていた。

山梨県神社庁甲府支部主催の「平成二十九年度伊勢神宮新穀感謝祭と井伊谷宮参拝の旅」は、去る十一月十六・十七日、各神社に縁の百余名が三台のバスに分乗し、晩秋と初冬の装いを車窓に眺めながら伊勢神宮を目指した。先ず高倉山の麓に鎮座する外宮（豊受大神宮）へ向かった。ご祭神の豊受大御神は天照大御神の食を司る五穀豊穣の神だ。火除橋を渡り手水舎でお手水を済ませ、左側通行で二つの鳥居をくぐり進むと板垣南御門の前に出る。その奥に立つご正宮は、檜の素木造りの高床式建物で、釘を使わない独自の建築様式の唯一神明造りだ。一行は御垣内に進み御垣内参拝を済ませ神楽殿にて御神楽を奉納した。

続いて五十鈴川のほとりの広大な森林に包まれた天照大御神を祀る内宮（皇大神宮）近くまでバスにて移動。宇治橋を右側通行で渡ると、そこは内宮の神域だ。外宮同様に手水舎で手水をし清めた。

長い参道沿いには、樹齢数百年から千年を超えるスギの巨木やケヤキ、クスノキ等の大木が聳（そび）え厳粛さが漂っていた。天照大御神をはじめ多くの神々を祀るここ神宮も、受難の時代が続いた事があった。

室町時代後期から百二十数年の間、遷宮が行われてなかった。安土桃山時代になって間もなくの一五八五年に四十一回目の式年遷宮が執り行われている。その様な過去に想いを巡らせながら参道に敷き詰められた玉砂利を一歩一歩踏み締め進むと、左手に神楽殿を拝し、さらに進み石段を上がると天照大御神が鎮まるご正宮だ。一行は心静かに神恩に感謝し、正式参拝を終えた。

二日目は鳥羽から伊良湖までフェリーで移動。NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」の舞台の浜松市井伊谷に寄る、後醍醐天皇の第四王子宗良親王がご祭神の井伊谷宮を参拝。希望者は井伊家菩提寺の龍潭寺も訪ねた。

二日とも天候にも恵まれ、恙無く参拝の旅が出来たことに対して、お伊勢参りをご準備下さった、根津庁長をはじめ関係者の皆々様に心から感謝と御礼を申し上げ、参詣のご報告とする。

内宮「荒祭宮」遙拝

平成三十年 運勢

戊戌・九紫火星

宮司　根津　泰昇

戊は戦を好むので、良結果が生じたと思えば、次の事柄は不結果を招くなど安定感が保たれないので現状を保つこと肝要。

九紫火星は成長し好転をし、社会的にも名誉徳望を得る。反面争い事が生じ易く、対人的にも離別があり、諸事不安定の面もある。故に諸事を融和に進め、利己的な言動を慎む事が必要。

☆一白水星（平運期の順調運）

本年は目的達成を成し得られる年なので、諸事には努力を惜しまず対応すること。人格向上を高められる良き年なので、物事に純粋な心構えで接すること。その為生活も東奔西走の忙しさがあります。諸事に良き決断を下すよう努めるように。

○昭和二十九年生　六十四歳
経済的には恵まれ易い年ですが、慎重さを失うと破滅の相もありますので、諸事を見守る精神で生活すること。金銭管理を怠らず。

○昭和三十八年生　五十五歳
自己の地位の向上を望む野心が芽生える年。その思いを応援してくれる目上の人も現れ、多忙な年となります。それが為に分離の相もあるので、行き過ぎに注意。

○昭和四十七年生　四十六歳
良き本質の年なれど、強情や我ままを通すと、反対の要因が表れますので、本年は保守精神で、穏やかな生活を。病難に注意。

○昭和五十六年生　三十七歳
女性は後厄です。厄除祈願をお受け下さい。諸事も順調に推移してゆくでしょう。神に願いながら本領を発揮しましょう。時として家庭での悩み事もある相があるので注意。

○平成二年生　二十八歳
諸事を軽じて行動すると対外的に辛苦に見舞われる事象あれど、悪あがきせず平静不動の精神で過ごすこと。

○平成十一年生　十九歳
女性は後厄です。厄除祈願をお受け下さい。最初の厄年も過ぎ一歩一歩歩み出す年です。赤ちゃんが最初の一歩を踏み出す時のように、小さな石にも注意して躓かないように歩んで下さい。

◎吉方　北・東・東・南・南西
◎凶方　北・東南・南・西北
◎諸事　建築・移転・開店　吉

☆二黒土星（平運期の順調運）

諸事が順調に進んでこられて、あと一歩進みたいと思っても力不足の年なので熟慮が必要です。精神的にも大仕事や大忙しをした後、一休みの時がありますが、その時と同様緩みが出ますので、生活管理に用心すること。

○昭和二十八年生　六十五歳
悦び事も多くあり、対人関係付き合い事も広くなり、落ち着いた生活となるでしょう。反面余裕のあまり仕事より遊びの方に傾くと危険が生じます。

○昭和三十七年生　五十六歳
本年は気を引き締めて事に当ること。自我を表面に出した言動を取ると批判を受けたり、支障を生ずる。病難に注意。

○昭和四十六年生　四十七歳
積極策より消極策を付き合い又レジャーの為の散財より貯蓄に目を向けるならば吉福多き年。日頃の生活に又諸事に感謝し、神社詣するなら吉。

○昭和五十五年生　三十八歳
諸事が順調に進んでも、謙虚な姿勢が大事であり、諸事を観察し、見直す心掛をしないと天恵薄い。平静不動に。

○昭和六十四平成元年生　二十九歳
他人から褒められたり、囃し立てられたりし、その気になり言動すると、財を失い離散を招くので、自分をしっかり見つめること。

◎吉方　南西
◎凶方　北・東・東南・南・西
◎諸事　建築・移転・閉店　吉

☆三碧木星（衰退期の注意運）

本年より衰退期に入りますので、諸事がスムーズに進行いたしません。今迄良好に進んできた場合でも、行き詰まりがあります。積極策より消極策に、前進より退守策を選ぶ方が無難です。

○昭和二十七年生　六十六歳
自我心を強く表面化する要素があります。強情に出ると下落の一途をたどることになるので慎重な言動が大切です。病難にも注意。

○昭和三十六年生　五十七歳
一歩控えた言動と、謙虚な姿勢で行動すること。又無駄な散財より資産になる使途ならば、将来に向けての改革になるでしょう。

○昭和四十五年生　四十八歳
良かれ、悪しかれ終着が起こる年。新たな改革を起こさねばならぬ年で生気を多分に使う為、天恵薄いので日々平静不動に。病難に注意。

○昭和五十四年生　三十九歳
精神的、経済的な面で悩み、迷いがあるならば、事に慎重に当ること。さもないと失うことになります。方向を改めることもひとつです。

○昭和六十三年生　三十歳
本人には気付かないかも知れませんが、自我心が強くなる年なので、謙虚な言動が求められます。自己主張に固執すると人との分離又失職に繋がりますので、自己管理を。

◎吉方　西北
◎凶方　北・北東・東南・南・南西
◎諸事　小規模改築前半吉
後半見送り

☆四緑木星（衰退期の注意運）

本年は凶作用暗剣殺の作用を受けますので諸事に注意が必要です。特に破談、絶交、離別、誹謗等の象意がありますので、自信をしっかり見据えて保全に徹底すること。

○昭和二十六年生　六十七歳
人生を振り返り良き事、悪しき事にあれども、神に神恩感謝の宮参りで、運気好転する。諸事繁栄し、無病息災を得られる。

○昭和三十五年生　五十八歳
本年は天恵薄く暗剣殺の作用を受け易い年なので、謙虚に平静不動の精神を貫くこと。

○昭和四十四年生　四十九歳
対外的に華やかな日常生活をせざるを得ない環境に遭遇し、内面厳しい環境になり、財政的に下降するので身の回りに注意を払うこと。

○昭和五十三年生　四十歳
男性は大厄の前厄です。厄除祈願をお受け下さい。本年は自己をしっかり見つめ、行動ひとつひとつに注意し、自我心を押さえること。

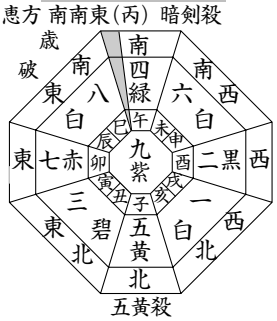
○昭和六十二年生　三十一歳
女性は大厄の前厄です。厄除祈願をお受け下さい。本心を外に出さず、内に秘め保全に努め日々黙々と歩むこと。自我を外に出すと誤解、誹謗を招き、妨害を受けるので注意。家中の病災にも注意。

平成三十年方位吉凶図

次の星の人は「方災除」「生気興隆」「開運」のご祈願を受け、災難除の御神徳をお授かり下さい。

●凶方位に新築、増築、改築、開店、進出、遠方旅行、移転行為をする人
●歳破を受ける八白土星の星の人
●衰退運の五黄土星の星の人
●変動運の九紫火星の星の人
暗剣殺を受ける四緑木星の星の人

ラッキー色　紫色



星	誕生年	吉方位	凶方位
一白水星（順調運）	平成 昭和 大正 二・十一年・二十一年 二九・十一・二十・七年 一八・三・四七・五六年	北東・東・南西	北・東南・南・西北
二黒土星（順調運）	平成 昭和 大正 一・十・十九・二八年 一・十・十九・二八・三七・十・五五年 六・十五年	南西	北・東南・南・西北
三碧木星（注意運）	平成 昭和 大正 九・十八年・二七年 九・十八・二七・四六・五五・十五年 五・十四年・六三年	西北	北東・東南・南・西北
四緑木星（注意運）	平成 昭和 大正 八・十七・二六年 八・十七・二六・五五・四四・十三年	北東・西北	北・東南・南
五黄土星（衰退運）	平成 昭和 大正 七・十六・二五年 七・十六・二五・四四・三三・十二年	東南西・西	北・東南・南
六白金星（準備運）	平成 昭和 大正 六・十五年・二四年 六・十五・二四・三三・二二・十一年	東西・西北	北東・南
七赤金星（順調運）	平成 昭和 大正 五・十四・三三年 五・十四・三三・二二・一一年	南西・西北	北東・東南・南西
八白土星（注意運）	平成 昭和 大正 四・十三・二二年 四・十三・二二・一一・九年	東南西・西	北・東南・南西北
九紫火星（注意運）	平成 昭和 大正 三・十二・二一年 三・十二・二一・一九・八年	北東・西	北東南・南

◎吉方　北東・西北
◎凶方　北・東南・南
◎諸事　見送り

☆**五黄土星（衰退期の衰退運）**
本年の運勢は大底に位置し、冬眠の時期です。動けば動く程悪化作用が生じるので諸事退守し、将来に向け内面的に努力を重ねるなら、援助を受け良好に進むでしょう。この一年の精神は平常心で穏やかに接すること。
星除祈願をお受け下さい。

○**昭和二十五年生　六十八歳**
天恵の薄い年なれど従来の生活を保全するよう務めること。無理な行動や積極さは控える。病災の相も有り、女性は特に注意。

○**昭和三十四年生　五十九歳**
男性は厄年の前厄です。厄除祈願をお受け下さい。本年は事柄が思う様に進みません。焦って大きく行動すると財物を失うことになりますので、慎重な行動が必要。己をしっかり見つめること。

○**昭和四十三年生　五十歳**
先ずは自我心と自己主張を押さえないと、困難、悩み、分離事が生じ苦悩を招き、対外的にも動きがとれなくなりますので注意。

○**昭和五十二年生　四十一歳**
男性は大厄です。厄除祈願をお受け下さい。諸事がスムーズに進まず、何かと精神的に悲嘆や気迷が生じ、悩み多き年。又自我心を表面に出すと誤解、誹謗を受け、不名誉な結果になるので、自己管理を徹底すること。

○**昭和六十一年生　三十二歳**
女性は大厄です。厄除祈願をお受け下さい。足元をしっかり見据え、身の回りの人々に気を使うこと。積極的な行動は控え平穏に。神社参りをし心広く歩めば、将来の呼び水となります。

○**平成七年生　二十三歳**
男性は厄年の前厄です。厄除祈願をお受け下さい。男性は人生初めての前厄であり、自己運勢を歩み出す準備の年です。精神を浄く持ち、正直に歩めば目上の人の引き立てを受け、将来に繋がるでしょう。

◎吉方　東・南西・西
◎凶方　北・東南・南
◎諸事　諸事見送り

☆**六白金星（盛運期への準備運）**
衰退期から盛運期への移行の年ですので、前半は去年の諸事の処理又今後に向けての準備をすると良いでしょう。後半は実行に移る時期で、生活設計を立て全てに対し努力を重ねれば、将来の基盤が作れるでしょう。

○**昭和二十四年生　六十九歳**
晩年の基礎作りを行うには良い年ですが、年齢を重ねてきましたので、見下し易い悪い面がでますので用心が必要です。

○**昭和三十三年生　六十歳**
男性は厄年です。厄除祈願をお受け下さい。厄年でありますので諸事の決まり事が非常に長引き捗りませんので慎重な行動を。

○**昭和四十二年生　五十一歳**
本年は自己向上に向けて努力を重ねる事。決して気位いを高く持つことなく慎重な言動にて生活を営むこと。

○**昭和五十一年生　四十二歳**
男性は大厄の後厄です。厄除祈願をお受け下さい。徐々に運気も上昇してきます。生活にも豊かさを感じるでしょう。財運も上々ですが、積極的な行動は控目に。

○**昭和六十年生　三十三歳**
女性は大厄の後厄です。厄除祈願をお受け下さい。華やかさはありませんが、温情平穏な生活が得られます。努力を積み重ねることにより、将来の土台作りになります。

○**平成六年生　二十四歳**
男性は厄年です。厄除祈願をお受け下さい。諸事に恵まれる年ですが、慎重さを失うと破滅や失敗の相があるので、足元を見据えた行動をとること肝要。

◎吉方　東・西・西北
◎凶方　北・北東・東・南・南・南西
◎諸事　前半見送り
後半建築・移転・開店吉

☆**七赤金星（盛運期の順調運）**
運気も上昇の年ですので、将来の計画を立てているなら、実行に移す時期です。しかしながら、単なる思いつきや軽はずみでの行動は成果を見ません。

○**昭和二十三年生　七十歳**
陰事が表面化する相がありますので注意。又持病とか体に無理を重ねてきたなら発病の相もあるので体管理を大切に。

○**昭和三十二年生　六十一歳**
男性は厄年の後厄です。厄除祈願をお受け下さい。対外的に反対、妨害を受け不名誉を受ける事があるので、自信を見つめ直し、正道な精神で日々の生活を営めば運気上昇。

○**昭和四十一年生　五十二歳**
努力さえ積み重ねるなら、衣、食、住に恵まれ豊さを感じます。反面一大事業を成すには、力不足なので時期を待つこと。病難に注意。

○**昭和五十年生　四十三歳**
諸事に決断、実行が出来る年なので、熟慮して決断、実行すると良い。精神も上昇するので対外的にも積極的に行動出来ます。酒席の出来事に注意。

○**昭和五十九年生　三十四歳**
運気も上昇で事柄も順調に進み、精神的に安定してきます。反面慎重さを失うと逆効果となりますので熟慮も大切です。

○**平成五年生　二十五歳**
男性は厄年の後厄です。厄除祈願をお受け下さい。本年より運勢を受け、歩み始める年です。自信を鍛えるなら、目上の引き立てもあり繁栄の道を歩むでしょう。

◎吉方　南西・西北
◎凶方　北・東・東南・南・西
◎諸事　建築・移転・開店　吉

☆**八白土星（盛運期の注意運）**
諸事が好結果を生み順調に事が進み繁栄の相があります。社会的に信用を得、対外的にも広く視野が広がり、順調に過ごすことが出来ます。反面歳破の凶作用も受けますので、慎重さと謙虚の心構えが必要です。

○**昭和三十一年生　六十二歳**
諸事に恵まれ、目標事も好結果を生むでしょう。財運も良く、精神温順になります。反面新規の事柄は向きません。足元を見据える事と病難に注意。

○**昭和四十年生　五十三歳**
諸事は順調に運びますが、自我心を強く出すと、急変化が生まれ逆効果の結果が生じますので慎重に事を運ぶこと。怪我や病難に注意。

○**昭和四十九年生　四十四歳**
諸事に恵まれますが、慎重さを怠れば良き方向には進みません。急いで事を失敗の原因となります。病災にも注意。

○**昭和五十八年生　三十五歳**
女性は厄年の前厄です。厄除祈願をお受け下さい。目上の人からの引き立てを受け、信用を得、繁栄の土台作りに良い年です。反面凶作用も受けるので、分離や不和事も生ずる年なので注意を。

○**平成四年生　二十六歳**
順調に進んでいるように感じ、自我心を表面に出し行動すると、不和事、障害を招くので、慎重な言動を。

○**平成十三年生　十七歳**
女性は厄年の前厄です。厄除祈願をお受け下さい。通常の日常生活をお過ごし下さい。相談事は先ず両親にすること。神社参りも大切です。

◎吉方　北・東南・南・西北
◎凶方　始める前に星除・清祓
◎諸事　をお受け下さい。

☆**九紫火星（平運期の注意運）**
本年は現状維持に徹し、あと一歩前進の気持ちを押さえ、保守保全に努めるならば現状が維持でき、次に向かって隆盛の橋渡しが出来る。諸事に対して大きな動きをしないで見守る精神で過ごすこと。

○**昭和三十年生　六十三歳**
諸事行動を起こせば資産を失うことになる。自我心を強く表現するとまとまる件も決裂しますので平静な決断を。

○**昭和三十九年生　五十四歳**
財運には恵まれ易い年ですが、行動に変化を起こすと、悪化作用が働き、仕事や身分に波瀾を招きます。生活、仕事面には慎重に自重することが肝要。

○**昭和四十八年生　四十五歳**
目上の人の引き立ても有り、信用を得、繁栄の運もあるが反面には自己主張を強く表に出すと、不和事、離散を招くので自惚れに注意。

○**昭和五十七年生　三十六歳**
女性は厄年です。厄除祈願をお受け下さい。本年は保守保全に徹し、強情を通さないこと。変化変動を起すと悪化作用が働き、運気が下降し諸事がスムーズに進みませんので、保守保全の精神を忘れないこと。

○**平成三年生　二十七歳**
草木が地表に発芽する時の様に非常に強力な力が働く時期で、力を堪えることにより、生気が蓄積し将来大きな力となります。

○**平成十二年生　十八歳**
女性は厄年です。厄除祈願をお受け下さい。
女性は初めての厄ですので、あまり気にかけず平静不動の精神で青春を楽しんで下さい。

◎吉方　北東・西
◎凶方　北・東南・南
◎諸事　見送り

職場体験学習

職場体験学習はキャリア教育の一環として生徒たちの進路選択の為、将来を考える力を得るために行われています。

今年は、七月五日・六日と八月九日・十日の各二日間、四校・十名の生徒が神社に職場体験学習にやってきました。

生徒たちは着慣れない白衣・袴に悪戦苦闘しながら一生懸命にやっていました。暑い中での境内清掃や書道等、生徒たちは積極的に取り組んでいました。

この職場体験を通して学んだことを活かし将来活躍されますことを心よりご祈念申し上げます。

ご神木の清掃

本殿御垣内の清掃

二日間の職場体験を終えて

浅川中学校　石原沙彩

私は今回の職場体験で、初めて巫女さんの袴を着ました。思っていたより着るのは楽だったけど、白衣をピシッと身につけたり、袴をキレイに着るのはとても大変でした。また、袴はとても動きづらく、何度か転びそうになってしまいましたがでも、なかなか体験できる事ではないので楽しかったです。

一日目は、境内を案内していただきながら、神様の事をいろいろ聞きました。拝殿には宇迦之御魂大神と大宮能大神の衣・食・住を司る生活の守護神がまつられている事や稲積神社は、元々舞鶴城の近くにあったことなど、いろいろな事を知る事が出来ました。

二日目は、お礼を袋に詰めたり、書道したりしました。今日は、神札を横に並べてまつる場合と、重ねてまつる場合のお札の並べ方、お供えものの並べ方などを教えていただきました。

この二日間で、神社に関するいろいろな話をきいたり、袴を着ていつもは出来ない体験をする事が出来、思い出に残るとても楽しくタメになる時間でした。

神様の近くで

甲府南中学校　輿石千尋

私にとってこの二日間は、とても貴重な時間でした。まず私が思ったことは、覚えなければならないことがたくさんある、ということです。巫女装束の着方とたたみ方を教えていただいた時は、こんなに難しい手順を覚えられるのか、と感じました。また、神様へのお供えを差し上げる時の姿勢や決まりもあり、又手にも気をつけなければなりませんでした。慣れていない動きに苦戦していた私ですが、二日目の今日、この全てのことを意識してきちんとできるようになりました。

また、いろんな方からこの神社の歴史や御祭神などについて聞き、今まで知らなかった新しい世界が広がったような気がしました。そして、神様がいるこの場所で仕事をする、ということを実感することができました。

日供祭に参列

普段のめったにできない巫女さんを体験して、今まで知らなかったこと、礼儀の大切さについて学べました。神社という神聖な場所、神様の近くで貴重な体験ができて良かったです。あっという間の二日間でした。この二日間、本当にありがとうございました。

二日間の職場体験を通して

上条中学校　河西彩花

私は、昔から神社やお寺をまわるのが好きで毎年京都に行っていて、よく巫女さんを目にしていたのですが、職場体験をさせてもらう前は、イメージとして、お守りを売ったりそうじをしたりと言うようなイメージしかありませんでした。しかし、実際やってみると、服から着るのが大変で作法も覚えなくてはならないしで、とても大変でした。

日供祭に参列

正ノ木祭りにも毎年家族で来させてもらっていましたが稲積神社がまつっている神さまの事をよくしらなかったので、来年の正ノ木さんは、しっかり神様にちなんだお願い事をしたいです。

参拝の時の礼のしかたが五つあることには、おどろきました。

稲積神社でまなんだ事を、これからに生かしたいと思います。

職場体験を終えて

山梨北中学校　三枝昂大

私がこの二日間の職場体験で学んだことは、「礼儀」です。例えば、毎朝神様にお祈りしたり、ご飯を食べる前と食べた後に、「食前感謝詞」、「食後感謝詞」というものを読んだりもします。このような事は普段使いませんがとても大事なことだと感じました。これからも神様に感謝しながら日々の生活をおくっていきたいと思います。

この職場体験では大変な事もありました。特に大変だったのは着替えです。初めて着物を着させてもらいました。最初は着るのが大変で、神社の方々に手伝ってもらっていました。でも、二日目には自分の力だけで何とか着ることができました。少しだけだらしない部分があったけど、自分だけで着れたのでよかったです。

私はこの稲積神社の方々にとても感謝しています。私たちの要望を心よく受け入れてくれて本当にありがとうございました。これからもお体に気をつけてお仕事頑張ってください。二日間本当にありがとうございました。

日供祭に参列

新年祈願ご案内

平成三十年戊戌年を迎え、新年祈願祭を斎行しております。家内安全・商売繁昌・厄除・合格祈願等随時行っております。

初穂料　五千円以上

安産祈願の歯来

安産祈願は神様に参詣し懐妊の報告と無事出産を祈願する行事です。

戌の日が選ばれるのは犬が安産であったため犬にあやかって戌の日に祈願するようになりました。近年はご都合の良い日を吉日と定めお参りなさる方も多くなりました。

平成30年　戌（いぬ）の日カレンダー

1月	6日（土）赤口　18日（木）先勝　30日（火）先勝
2月	11日（日）先勝　23日（金）友引
3月	7日（水）友引　19日（月）仏滅　31日（土）仏滅
4月	12日（木）仏滅　24日（火）大安
5月	6日（日）大安　18日（金）先勝　30日（水）先勝
6月	11日（月）先勝　23日（土）友引
7月	5日（木）友引　17日（火）仏滅　29日（日）仏滅
8月	10日（金）仏滅　22日（水）赤口
9月	3日（月）赤口　15日（土）先勝　27日（木）先勝
10月	9日（火）先負　21日（日）先負
11月	2日（金）先負　14日（水）仏滅　26日（月）仏滅
12月	8日（土）赤口　20日（木）赤口

平成三十年厄年表（数え年）
星除祈願

男の厄年

	前厄	本厄	後厄
大厄は四十二歳	24歳 平成7年生	25歳 平成6年生	26歳 平成5年生
	41歳 昭和53年生	42歳 昭和52年生	43歳 昭和51年生
	60歳 昭和34年生	61歳 昭和33年生	62歳 昭和32年生

女の厄年

	前厄	本厄	後厄
大厄は三十三歳	18歳 平成13年生	19歳 平成12年生	20歳 平成11年生
	32歳 昭和62年生	33歳 昭和61年生	34歳 昭和60年生
	36歳 昭和58年生	37歳 昭和57年生	38歳 昭和56年生

数え年とは、満年令に誕生日前には一歳、誕生日後には一歳を加えた年です。

運勢学でみる厄年の大厄は衰退期の衰退運に回座する年を言います。男性は昭和五十二年生、女性は昭和六十一年生の方です。男性の昭和三十三年生、平成六年生は生気興隆の為に生気が増大するので注意の厄。女性の昭和五十七年生・平成十二年生は八方ふさがりの注意の厄です。星除は**四緑木星生、五黄土星生、八白土星生、九紫火星生**の方は星除祈願をお受け下さい。

平成二十八年表彰者

・県政功績表彰
常若会　遠藤　孝

平成二十九年表彰者

・春の褒章
黄綬褒章
責任役員　齋藤　茂

・秋の叙勲
旭日小綬章
総代　内田　清

・県政功績表彰
崇敬会　飯島　忠
崇敬者　望月　健

・総代会規程表彰
睦会　松田　裕
睦会　清水　一紀

表紙の説明

十二支灯籠

嘉永四年に全国より奉納された「江戸時代の十二支石灯籠」。戦災により消失し、「牛」の一基だけが現存している。今現在は崇敬者が昔を偲び復元され、北参道に十二基揃っている。古来より灯籠に刻まれている自分の「干支」にさわり、三回廻り祈願すると身体健固・諸願成就・学問向上のご神徳があり、その年の「干支」にさわり祈願すると厄除・開運のご神徳があると言われている。

戌年にちなみ「稲積神社と安産」の話

当社で古来より受け継がれている「鍵銜向霊狐（かぎくわえむかいきつね）」の絵馬には、鍵をくわえている狐がいます。この鍵が「子宝や幸せの入った宝箱をあける鍵」という言い伝えがあります。そして「五穀豊穣のお稲荷さん」なので、稲がたわわに実り収穫される様から『子宝・安産・開運』の御神徳があるといわれております。「衣・食・住を司る生活の守護神」として崇められる、山梨県で一番大きなお稲荷さんへどうぞお参り下さい。

稲積神社恵方参り（案）

日程：平成30年2月4日（日）～5日（月）　会費：25,000円

2月4日（日）	甲府市内各地 ----- 精進湖道路 ------ 富士山本宮浅間大社（正式参拝） ---------- --みんなのハワイアンズ ------ 浄蓮の滝 ------ 東京ラスク伊豆店 ------ 修善寺温泉　桂川
2月5日（月）	ホテル ------ 箱根神社（正式参拝）≈≈≈≈ 箱根湖畔 ----- 小田原『鈴廣』 ---------- --小田原厚木道路・圏央道・中央道 ----- 甲府市内各地

祭典行事暦（一月～四月）

月始祭　毎月一日十時
一月一日　歳旦祭
三日　月次祭・元始祭
十五日　神恩感謝祭
随時　新年祈願
二月一日　月始祭
二月三日　月次祭
三日　節分祭
七日　初午祭
八日　針供養
十五日　神恩感謝祭
十七日　祈年祭
三月一日　月始祭
三日　月次祭
十五日　神恩感謝祭
二十六日　天満天神社例祭
二十六日　熊野社例祭
二十九日　猿田彦社例祭
四月一日　月始祭
二日　甲子祭
三日　月次祭
十五日　神恩感謝祭

第十三回崇敬会大祭と講演会

禰宜　根津佳明

崇敬者大祭

去る平成二十九年九月九日、第十三回崇敬会大祭が斎行されました。昨年同様、不肖私が斎主を務めさせていただき、「なかとりもち」として身が引き締まる思いで奉仕し、崇敬会員の「家内安全」「商売繁昌」はもとよりながら、今の私たちが平和でいられることの感謝と、日本の弥栄、世界の平和をお祈り致しました。衆議院議員中谷真一様、衆議院議員宮川典子様御名代をはじめ、県議会議員・市議会議員の先生方もご参列いただき厳粛に斎行されました。

大祭後の式典では、宮司挨拶・小尾総代会長挨拶・祝辞山梨県神社庁顧問 山梨縣護國神社宮司　羽中田進様・祝辞衆議院議員 中谷真一様・メッセージのご披露「衆議院議員宮川典子様」「参議院議員赤池誠章様」と進みました。その後の懇親会で親睦を深め、本年の崇敬会大祭も成就致しました。

さて、本年の崇敬会大祭の催しは、九月四日に行われました「宗教者懇話会　じべた文化講演会」へ参加ということでした。講師の錦田先生は、神々の國　出雲に鎮座する万九千神社（まんくせんじんじゃ）の宮司さんで、旧暦の十月に出雲に集った神様が直会（なおらい・お酒を酌み交わしながら神様と人との直りあい）をする場所の宮司さんです。私が出雲大社でご奉仕させていただいた頃から仲良くさせていただいていまして、今年の四月に出雲大社へ伺ったときの講師もされていて、とても興味深い熱い話をされます。今回も、「神主になるまでの人生の決断」「神在月の奉仕」「神道の大切さ＝日本人の心の大切さ」など分かりやすく笑いを混ぜながら話していただきました。

宗懇文化講演会

感謝の心・調和の心・祈りを捧げることは、自分の為ではなく愛する大切な他人のために行っているということ。それが自分の幸せにもつながることを、あらためて感じる事の出来る崇敬会大祭でした。

御田植祭

農耕が生活のすべてであった農耕民族の日本人は、春に豊作を祈る「祈年祭」に始まり、秋の収穫に感謝する「新嘗祭」を行い、稲作を中心とした営みを二千年以上繰り返して来ました。

稲の育成周期が日本人の一年と言えるのです。そのため「豊作を祈る」ことは国家の安泰、国民の繁栄を祈ることに他なりません。今の時代も伊勢神宮を始め八百万の神社では「祈ること」「願うこと」を粛々と行っております。

天皇陛下から国民に至るまで神を祀ることは日本の大切な文化なのです。

去る平成二十九年五月二十八日。稲積神社の境内の御神田にて「御田植祭」が斎行されました。

神田抜穂祭

抜穂祭とは、御田植祭から続く農耕神事の一つです。神事では五穀豊穣の稲荷大神様の御神徳により稔った稲穂に感謝の祝詞を奏上し崇敬者達によって刈り取ります。

抜穂（ぬいぼ）とは、大昔まだ鋭利な鎌がない時代に稲穂を一本ずつ抜き取っていたころの名残りと考えられています。

当神社では平成二十九年十月一日に「抜穂祭」が斎行されました。刈り取った稲穂は十一月の新嘗祭に神前に感謝の祈りを込めてお供えされます。

稲刈りの様子

新嘗祭

新嘗祭は「しんじょうさい」ともいい、「新」は新穀を「嘗」は奉ること意味し、収穫された新穀を神に奉り、その恵みに感謝し、国家安泰、国民の繁栄をお祈りします。

現在、このお祭りは毎年十一月二十三日に宮中を始め、日本全国の神社で行われていますが、特に宮中では天皇陛下が自らお育てになった新穀を奉るとともに、御自身おんみずからもその新穀をお召し上がりになります。収穫感謝のお祭りが十一月下旬に行われるのは東北や北陸などの収穫を天皇が待っておられると説明されています。

宮司　稲刈り初めの儀